

Title	一般均衡理論と破産ならびに情報
Author(s)	吉町, 昭彦
Citation	大阪大学, 2006, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/46726
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について <a>〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	よし まち あき ひこ 吉 町 昭 彦
博士の専攻分野の名称	博 士 (経済学)
学位記番号	第 19884 号
学位授与年月日	平成 18 年 1 月 19 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 経済学研究科経済理論専攻
学位論文名	一般均衡理論と破産ならびに情報
論文審査委員	(主査) 教授 永谷 裕昭 (副査) 教授 伴 金美 助教授 浦井 憲 助教授 佐々木 勝

論文内容の要旨

本論文は、破産が生起する経済社会を一般均衡理論の観点から考察し、そのような社会が曲がりなりにも運行していく様子を描き、知見を与えることを目的として書かれたものである。さらにまた、情報の経済学の視点から経済社会を記述することにより、破産が起こりうる経済社会に対する考察において、補完的な知見を与えることを目的としたものである。破産は現実経済において無視することのできない経済現象であり、今日の経済学理論の観点からいえば、情報の不完全性下での取引ゆえに発生する問題、すなわちモラルハザードやアドバースセクションの問題に関わる重要なテーマである。本論文は、破産の本質をその影響の連鎖性と考え、破産の起こりうる経済を一般均衡論的立場から研究したものである。

第一章は、Morishima-Grandmont 的な一時的一般均衡の立場から、破産の起こりうる交換経済の一時的一般均衡モデルを構築し、その均衡の存在を証明したものである。本章の基本となるアイデアは、借手が積極的に計画破産を回避しようとする Minimum Utility の仮定である。この仮定のもとで、一時的一般均衡の存在が保証され、しかも、この均衡において、計画されなかった破産が起こり得ることとなる。

第二章は、破産を伴う均衡の存在を証明した前章の一般的なモデルを単純化したものである。この単純化されたモデルについて、直接的な均衡存在の証明が行われ、さらに、具体的な数値例を与えることによって、破産を伴う均衡が明示される。

第三章は、消費者破産しか描けていなかった第一章のモデルを企業破産をも記述できるように拡張し、その上で均衡の存在を証明したものである。

第四章は、破産を考慮に入れた経済において、モラルに関する条件を仮定することによって、均衡の存在を保証したものである。一般に破産が発生するときには予算集合が非凸となるが、本章では、非凸なる予算集合の中にモラル的な行動領域とインモラル的な行動領域の線引きをする基準が与えられる。そして、インモラルな行動を取るとき、モラル的な行動の範囲からの乖離の度合いに応じて、心理的な負担が増えることを仮定し、均衡の存在が証明される。

第五章は、非対称情報下での取引を描いたものである。本章では“pseudo-technology”という独自の概念を導入し、ある種の詐欺的な販売行為がとある技術によって行われると考え、非対称情報経済を記述している。売り手の持つ非対称情報が売り行為のみに関わり、買い行為においては保険等何らかの制度をもって平均化されている場合、市場はどのようなものになるか、ということについての知見を与える。

論文審査の結果の要旨

本論文は、破産の本質をその影響の連鎖性と考へ、破産の起こりうる経済を一般均衡論的立場から研究したものである。破産が生起する経済社会を一般均衡理論の観点からモデル化し、そのような社会が曲がりなりにも運行していく様子を描くことに成功した。さらにまた、情報の経済学の視点から経済社会を記述することにより、破産が起こりうる経済社会に対する考察において、補完的な知見を与えた。審査担当者は、本論文を博士（経済学）の学位論文として価値あるものと認める。